



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3 20 2-03 4 2

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「より良い世界のために、共に」
- アジア会長主題 「大きなインパクトを起こそう」
- 東日本区理事主題 「ワイズの方向性を見極める」
- 「ユースエンパワーメントをYMCAと共に」
- あずさ部部長主題 「未来のために行動しよう」
- 東京西クラブ会長主題 「居心地の良いワイズライフを楽しもう」

### 2024年12月号

NO 579

成長させて下さったのは神です。

コリントの信徒への手紙1 3章6節

### WHOウォーキングにご参加・ご協力いただいた皆様

30年の長きにわたり、皆様に愛されご参加いただいておりますWHO（ウォーキング・ホリデー・オギクボ）の活動を諸般の事情により中止しておりましたが、好転の見込みがないことから、残念ながら本年12月末をもって活動を中止し、解散することになりましたので、ご案内申し上げます。

WHOは当初から中高年の方を中心として活動しておりましたため、定期的な若いリーダーのリクルートが思うように進まないままでした。活動開始当時は、活動的で派手なランニングブームに圧倒され、「そのけ、そのけ、ランニングが通る」という感がありましたが、今ではむしろウォーキンググループが市民権を得て目につくようになり、道の真ん中を歩くようになっております。しかしながら、魅力あるプログラムを計画実行するリーダーや、安全を確保する人材が揃わない実情から、今後の継続が厳しくなり、やむなく活動の中止を決断させていただきたく存じます。

今後は皆様それぞれお身体にご留意されながら、運動を継続いただければ幸いです。長い間、ご参加、ご協力をいただき、ありがとうございました。

2024年12月 日

東京西クラブ会長 神谷幸男

WHO企画実行世話人 吉田明弘



吉田明弘さんが30年に渡り続けてきたWHOが、体調不良のため活動が困難になり解散に向けて話し合いが続けられました。

この1年ほどは樋口順英さん（東京グリーン）や関喜一郎さん（元石巻広域）の応援もありましたが、当初から受付、会計などの協力を頂いた中澤さん・藤江さん（東京たんぼぼ）、石井さん（東京西）も高齢になり残念ながら断念することになりました。

2016年に発行した197回のコースご紹介のあと、最終回となる269回までの資料はブリテンに掲載したものをプリントして、在京新年会受付に置かせていただきますので、ご希望の方はお持ち帰りください。

### クラブ役員

- 会長 神谷 幸男
- 副会長 本川 悦子
- 書記 村野 絢子
- 会計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

11月の記録		ニコニコ	9,885円
在籍者数	12人	武蔵野多摩	2人
(内功労会員)	1人	たんぼぼ	4人
出席者数	10人	ビジター	4人
メーカー	0人	ゲスト	3人
出席率	91%	出席者合計	23人
		WHO参加者	一人
		クラブファンド	0円
		ファンド残高	114,715円
		ホテル校ファンド	4,885円
		ホテル校残高	19,424円

## 12月クリスマス合同例会のご案内

強調テーマ：キリスト教理解 IBC

日時：12月21日(土) 11:30～

会場：東急百貨店 吉祥寺店 9F「梅の花」

JR・京王井の頭線「吉祥寺駅」

北口より徒歩5分

会費：5,000円

担当：B班（大野、河原崎、高嶋、村野絢、横山）

HAPPY BIRTHDAY

18日 村野 絢子

受付：東京たんぽぽ 藤江喜美子

司会：東京たんぽぽ 服部 節子

開会挨拶 東京たんぽぽクラブ会長 小原史奈子

聖書朗読 司 会

出席者紹介 3クラブ会長

食前の感謝と黙祷 一 同

懇親

ハッピーバースデー

連絡・報告・ひとこと 各 担 当

閉会挨拶 東京西クラブ会長 神谷 幸男

## —11月事務会報告—

日時：11月28日(木)

16時30分～18時45分

会場：阿佐谷地域区民センター

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、本川、村野絢  
村野繁 吉田

&lt;報告事項&gt;

①10月会計(11/28まで)承認

②その他の活動

◇やまてまつりに参加：大野、篠原、本川

◇東京サンライズクラブ例会に参加：本川、zoom参加：篠原

③12月事務会、開催時刻を変更16:30を16:00に。即ち12月26日16:00～、会場：阿佐谷

&lt;協議事項&gt;

議題①：WHOに関する件

審議経過

決議事項1：WHO事業は本年12月をもって終了する。

決議事項2：WHO終了に関する対外的処置については下記3をもって行う。

提案1：本年12月中に挨拶状(事業の経過と終了に至る理由等とお礼)、記名は東京西クラブ会長及び吉田明弘、を関係者に送付する。

提案2：本事業は当分休会とし、然るべき時期(明年春頃)に終了集会(お別れ会)を開いて事業の経過と終了に至る理由等とお礼を述べて本事業の終了を伝える。

提案3：本事業は本年12月をもって終了し、然るべき時期(明年春頃)にお別れ会等集会を開いて事業の経過と終了に至る理由等とお礼を述べる。12月中に本事情(経過報告とお礼とお別れ会開催を記したはがきによる挨拶状(記名：東京西クラブ会長及び吉田明弘)を送付する。

決議事項3：WHOの記録集の既発行の後編を作成する。(作成者

ないし作成グループ及びその配布については追って決定する。

議題②：2025年在京ワイズ合同新年会の件

審議結果：前回打ち合わせ以降の進捗状況報告と該報告を踏まえて詳細事項の再確認、及び次回の会合は2025年1月8日(木)

14:00に東陽町センターに集合。その他、必要に応じて電話、メールにて行う。

(書記代行 神谷幸男)

## 石巻広域クラブ訪問を終えて

11月22～23日に、東京たんぽぽクラブさんが以前から実施されていた「石巻グループホームへの歌の出前」に同道させていただきました。歌詞画面と伴奏があるので、皆さんが思い切り声を出して歌い、また来て下さいとの言葉を頂きました。

夜は例会に参加させていただき、「大川未来を拓くネットワークへの支援を通して」と題し被災者支援におけるストレスマネジメントの在り方について、代表・只野哲也さんと顧問・佐藤秀明さんの卓話がありました。只野さんは当時小学5年生、校庭から避難するとき助かった4人の内のお1人で、今は24歳の青年になり校舎保存運動や震災伝承活動のため全国各地を訪れているそうです。

大川小学校隣の伝承館では、当時裏山側に避難指示しなかった教師たちと保護者側の裁判のいきさつも展示され、津波が襲い来る前の混乱した状況でどのように判断するかについての難しい問題に気付かされました。

翌日は、清水弘一さん、関川祐一郎会長のご案内で復興工事が続く各地をご案内いただきました。港にはプロによる壁画で飾られた高い堤防が続き、観光施設も高台に作られていますが、中には住民が震災前の3分の1に減った場所もあるそうです。でも地元の方が開く活気あるマルシェ訪問や、途中車窓から見た石巻博物館で再来年の東日本区大会が開かれると伺い、再訪が楽しみになりました。

皆様には大変お世話になりましたが、忘れられない思い出になりました。有難うございました。(篠原文恵)

ゲストを五人お迎えして、ヨーデル演奏と歌曲を楽しみました。北川さんのリードがお上手で参加者全員も一緒に合奏、歌いました。



### —11月合同例会報告—

11月21日(木)、山手センター3Fで東京武蔵野多摩・東京たんぼぼ・当クラブによる合同例会が18:30~20:30に開かれました。

まず運び込まれたヨーデル楽器の多さにびっくり、アルプホルン(国によりアルプスホルンともいうそうだがスイスではアルプホルン)は3mはありそう。音程が異なるカウベルが20数(?)個、ハンドベルも同じ、きれいな音色が期待を弾ませます。他にアコーディオン、トロンボーンが並び、それらを楽しみに見ながら先ずは例

会プログラムが始まりましたが、ZOOM併催が直前だったので、プログラムの都合で食事中は画面の向こうに待機して下さった方には申し訳ないことでした。

二期会オペラ会員の北川桜さんの説明では、ドイツ・スイス・オーストリアの違いは日・中・韓の関係のようにお国柄が違うそうだが、アルプス地方では山麓の牧童が仲間と呼び交わすのに使用したそうで、独特の裏声をみんなでやってみるが意外と難しい。説明の後に各地方のヨーデルコンサートが始まりました。

北川さんは1人で沢山の楽器を弾きこなし、歌い、トロンボーン奏者のトム・ブフラウメさんの「リリー・マルレーン」では意外な選曲に驚きました。

参加者も参加のハンドベル演奏は音楽活動が豊かなワイズメンバーが名乗りを上げそれぞれ担当、即席の合奏なのに皆さんとてもお

上手でした。全員でハンカチを振りあってリズムに合わせて歌ったりして、1時間があったという間に過ぎました。

私的な話ですが、以前スイスの山上の大きな山小屋で食事をした時、居合わせたドイツの合唱隊が歌いだし、それに続き各国の観光客らが自然に自国の歌を歌い出し最後はみんなで大合唱になったことを思い出し、山での出会いの不思議な魅力、素晴らしさを思い出しました。(篠原文恵)

出席者：＜メンバー＞山口・渡辺(東京武蔵野多摩)、小原・服部・藤江・小畑(東京たんぼぼ)、石井・大野・河原崎・神谷・篠原・村野・村野繁・本川・吉田・横山(東京西)、＜ビジター＞小山・長津(東京サンライズ)、樋口(東京グリーン)、伊藤(東京多摩スマイル)、波々壁(東京YMCA)、＜ゲスト＞北川桜さん・トム・ブフラウメさん(卓話・演奏)

### フィリア美術館を訪問して

10月の下旬に、東京武蔵野多摩クラブを休会中の大輪匡史さんから、フィリア美術館鑑賞ツアーに参加しませんかとお誘いがありました。篠原さんを誘って参加しました。

ツアーは11月の末、JR小淵沢駅からタクシー組と徒歩組に分かれて美術館を目指しました。冷たい風が吹いていましたが、お天気が良く、私たちは美術館まで歩きました。富士山がよく見えて30

分の道のりは楽しかったです。東京方面から14人、甲府から小倉恵一ご夫妻、長野から森本俊子さん、倉石美津子さんが参加されました。フィリア美術館は「平和」をテーマに1990年に開館しました。主に宗教画が展示されています。外観は山の教会を思わせるような佇まいで、中央の部屋はパイプオルガンが正面に設置されていて、教会の礼拝堂のようです。

夏にはコンサートも開催されるとのことでした。展示はゲーテ・

コルビッツの版画と彫刻、ポーランド国立オシヴィエンチム博物館から寄贈された、アウシュビッツの獄中で、監視の目を盗んで制作された版画が常設で展示されています。館長さんの説明をいただいでから展示を鑑賞しました。

ここで小倉ご夫妻とは別れ、10分ほど歩いてリゾートホテルの飲食街でお昼を食べて、夫々帰途につきました。とても有意義で楽しかった1日でした。(本川悦子)



## 日々の中から 朝の散歩

村野絢子

2005年頃から毎朝6時10分(寒い冬の朝の冷たい空気は最高)に家を出て、神田川沿いを歩く。

約20分で塚山古墳のある塚山公園につく。40人ほどが集まってラジオ体操をする。川の反対側を家に戻る。帰り道は大体同じ顔ぶれでおしゃべりしながらなので25~26分かかる。

夫は新聞を読みながら「いってらっしゃい」、「おかえり」が朝の会話。いつ頃からか夕食後の食器洗いを朝にしてくれるようになった。本当は夕食後直ぐだと良いのだが、5時にビールを飲み始め8時にベッドに行くので無理。洗剤にこだわり自分流でするので口を挟まない。

4年程前に「自分も歩こうかな」という。1度も私から誘ったことはない。有言実行散歩と体操が2人の日課になった。とはいえ6時に起きて着替えるとすぐ「10分だよ」と言って、一緒に玄関を出てもペースは違い、私は私、彼は彼。

ストックで最短コースを歩く私と迂回しながら2倍の距離を歩く夫。友人は「足が短いのに歩くの速いわね」と褒めて?くれる。

雨の日は休む私と違い、雨でも雪でも休まない。「今日は、3人と犬2匹だった」などと報告する。

7時5分前頃帰宅。それから食器洗い、わたしはタオルで拭いて決まった場所に戻していく。連続テレビ小説の時間。居間に移動し自分の場所に座って見る。それから夫はコーヒーを飲み、丹念に新聞を読む。

私は5時半に起きて15~20分で

長女のお弁当作りをし、洗濯ものをチェック、着替えてから歩くので、テレビの後は、洗濯機を回し、ゆっくりたっぷり朝食をとる。

散歩の楽しみはいろいろある。桜の季節は勿論、桜トンネルに始まり、桜吹雪、花いかだ、大木にはひこばえも可愛い。

11月のある日、その大木の1本の桜の木に札がかかり、危険なので伐採するとの事。今は根元から高さ20~30センチ・直径1メートル近く美しい木目の座卓状になり、小さなサルノコシカケが生えている。毎朝通るたびに「長い間楽しませてくれてありがとう」と声をかけ、木肌を撫でて「また明日!」と離れる。

朝の散歩は習慣にして続けるのが身体にも好いようだ。皆様にもお勧めしたい。

## YMCA Today

■ホテル学校では、12月2日で2学期授業が終了し12月5日より海外研修旅行を実施。研修先はコロナ禍の国内から昨年は海外に復帰し香港へと行きましたが、今年は更にタイ・バンコクコースを加えた2コースでの実施となりました。ホテル学校の研修らしく宿泊先は高級ホテルばかりです。香港ではアンダーズマカオ、ザ・ペニンシュラ香港、ザ・リッツ・カールトン香港、タイではプルマン、セントレジス、マンダリンオリエンタルに宿泊します。卒業を控える2年生にとって観光も美味しい食事を楽しむことができ、同窓生との素敵な思い出がまた1つ増えました。そしてホテルライフを楽しむ2年生とは打って変わって、1年生はホテル実習中。クリスマス、年末年始と多忙な時期を迎えるホテルで奮闘中です。こちらもしっかりとサポートして参ります。

■石川県能登地方を襲った記録的

豪雨の被災者支援のため、全国YMCAが連携して輪島市町野町にボランティアを派遣しています。11月末までに全国YMCAで延べ175人(内東京YMCAの学生ボランティア、スタッフは37人)が、泥かきや物資の仕分けなどの支援活動に従事しました。また、東京YMCAでは11月2日~4日に輪島市、七尾市、穴水町、志賀町の小学生14人を招待し、「のと未来キャンプ」を国立能登青少年交流の家で実施しました。「第23回日本YMCA大会」が「Link!~[私]、YMCA、世界、そして未来~」をテーマにYMCA東山荘で11月15日~17日に開催。全国YMCAからユースボランティア、会員、職員など約215人(東京YMCAから21人)が参加、オンラインで94人が視聴しました。基調講演「世界YMCA VISION2030」の学び、全国YMCAの日本一自慢、会員表彰等のプログラムが持たれ、活気ある大会となりました。

担当主事 横山弥利

## 編集後記



11月10日(日)、山手センターで開催された山手まつりに大野さん、本川さんと参加しました。今年もチビッチたちを中心にお客様で賑わい、玄関前にはテントが張られ、沢山のボランティアによって飲食店、模擬店、ゲームコーナー、謎解きなどが全館で展開されました。

今回初めて実施したというピザ作り体験や、アルコール無しのカクテルであるモクテルはみんなです試飲、おたのしみ抽選会でも大変盛り上がりしました。

会場前に募金先アンケートのシール張りがあり、自分の募金先を選ぶという若者のアイデアにも感心しました。(F.S)